



第32回全国豊かな海づくり大会 美ら海おきなわ大会  
(平成24年11月18日 沖縄県糸満市)

写真提供：水産経済新聞社

## CONTENTS

第32回全国豊かな海づくり大会について	2
	増殖推進部 栽培養殖課
大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT) の年次会合の結果について	4
	資源管理部 国際課
お知らせ	
瀬戸内海漁業調整事務所漁業取締グループが人事院総裁賞を受賞	6
	漁政部 漁政課
回遊魚	7
	仙台漁業調整事務所長 加藤 久雄
平成24年11月分のプレスリリース	8

## 第32回全国豊かな海づくり大会について

増殖推進部 栽培養殖課

去る11月18日（日）、第32回全国豊かな海づくり大会が、沖縄県糸満市西崎総合体育館（式典行事）及び糸満漁港北地区（海上歓迎・放流行事）で開催されました。

今年の沖縄大会は、「まもろうよ きせきのほしの あおいうみ」をテーマに、第32回全国豊かな海づくり大会沖縄県実行委員会と豊かな海づくり大会推進委員会の共催のもと、農林水産省、環境省の後援により開催されました。本大会は、水産資源の維持培養と海の環境保全に対する意識の高揚を図るとともに、水産業に対する認識を深めていただくための国民的行事として、昭和56年度から毎年開催されており、天皇皇后両陛下には、皇太子・同妃殿下の時代から御臨席いただいております。

式典行事は、天皇皇后両陛下御臨席のもと、大会旗入場に引き続き、國吉眞孝沖縄県漁業協同組合代表理事組会長による開会のことばで始まりまし。横路孝弘大会会長が、「人々の魅了する美しい海に囲まれた沖縄県において、日本への復帰四十周年の節目の年に本大会が開催されることは、大変意義深いものであること」「昨年、東日本大震災からの復興はもとより、災害への十分な対策を行うことは、喫緊の課題であり、サンゴ礁が豊かな水産資源をもたらす、自然の防波堤として人々の暮らしを守る役割も果たし、自然に畏敬の年を払い共生していく中で自然を守り育てることは、災害対策の観点からも大切なこと」に触れられつつ、「全国の水産業に携わる皆様が将来への希望と展望を持って日々の仕事に従事できるよう、全力で取り組んで参ります。」と述べられました。

続いて、主催者として仲井眞弘多沖縄県知事が、「沖縄県民は、琉球王国の時代から、東アジアの架け橋になりたい、という精神を身につけ、海外との交流を深め、そして、長い交流の歴史の中で、独自の文化や芸能等を創造してきました。これも、沖縄県が地理的に恵まれ、東西南北に横たわる広大な海からの恩恵に浴している賜であります。」と挨拶され、「沖縄県としましても、この青い海と豊かなサンゴ礁を保全するための施策を積極的に展開して参ります。」と述べられました。また、上原裕常糸満市長が、「この大会が、水産業の一層の振興発展と貴重な海の歴史・文化を後世に伝えるとともに、全国各地に豊かな海を守る心が広がりますよう祈念申し上げます。」と歓迎のことばを述べられました。

続いて、功績者団体等への表彰式が行われ、横路孝弘大会会長、郡司彰農林水産大臣、長浜博行環境大臣、本川一善水産庁長官、仲井眞弘多沖縄県知事がそれぞれの受賞者に表彰状を授与されました。



第32回大会キャラクター  
「アバサンゴ」



式典行事（各賞表彰）  
写真提供：水産経済新聞社

## 第 32 回全国豊かな海づくり大会 受賞者一覧

## 【功績団体】

## &lt;栽培漁業部門&gt;

大会会長賞 沖縄県 南部豊かな海づくり大会実行委員会  
 農林水産大臣賞 福井県 嶺北地域栽培漁業推進協議会  
 環境大臣賞 熊本県 天草漁業協同組合牛深総合支所 青壮年部  
 水産庁長官賞 推進委員会 日本海北部海域栽培漁業推進協議会

## &lt;資源管理型漁業部門&gt;

大会会長賞 高知県 高知県漁業協同組合  
 農林水産大臣賞 兵庫県 ガザミふやそう会  
 環境大臣賞 沖縄県 羽地・今帰仁漁協資源管理委員会  
 水産庁長官賞 青森県 三厩漁協さめ釣り部会

## &lt;漁場・環境保全部門&gt;

大会会長賞 北海道 美国・美しい海づくり協議会  
 農林水産大臣賞 沖縄県 チーム美らサンゴ  
 環境大臣賞 大分県 名護屋地区藻場保全活動組織  
 水産庁長官賞 熊本県 特定非営利活動法人 NPO21 くまもと「金峰・有明環境会議」

## 【作文コンクール】

## &lt;小学校低学年の部&gt;

大会会長賞 赤嶺 智春 沖縄県豊見城市立座安小学校 3年  
 農林水産大臣賞 野原 駆 沖縄県竹富町立竹富小学校 3年  
 環境大臣賞 隅田 風太 沖縄県竹富町立竹富小学校 2年  
 水産庁長官賞 森岡 高斗 沖縄県糸満市立兼城小学校 3年  
 鳥取県知事賞 儀間 端季 沖縄県那覇市立古蔵小学校 2年

## &lt;小学校高学年の部&gt;

大会会長賞 高橋 萌空 沖縄県石垣市立伊野田小学校 6年  
 農林水産大臣賞 上野 虹紀 沖縄県竹富町立竹富小学校 4年  
 環境大臣賞 砂川 寿三 沖縄県石垣市立伊野田小学校 5年  
 水産庁長官賞 平良穂乃花 沖縄県金武町立嘉芸小学校 5年  
 鳥取県知事賞 上原 美弥 沖縄県浦添市立前田小学校 6年

## &lt;中学生・高校生の部&gt;

大会会長賞 砂川 進一 沖縄県宮古市立来間中学校 2年  
 農林水産大臣賞 島袋 マキ 沖縄県糸満市立潮平中学校 2年  
 環境大臣賞 池間かおり 沖縄県宮古市立伊良部中学校 3年  
 水産庁長官賞 野中 秋穂 沖縄県今帰仁村立今帰仁中学校 1年  
 鳥取県知事賞 名嘉山杉野 沖縄県立名護商工高等学校 1年

## 【写真コンクール】

## &lt;中学生の部&gt;

該当なし

## &lt;高校生の部&gt;

大会会長賞 糟谷 歩 愛知県豊田東高等学校  
 以下該当なし

## &lt;一般の部&gt;

大会会長賞 中程梨枝子 沖縄県那覇市  
 農林水産大臣賞 白石 信夫 愛媛県宇和島市  
 環境大臣賞 祖慶 良勇 沖縄県那覇市  
 水産庁長官賞 釜谷 寿人 岩手県下閉伊郡  
 沖縄県知事賞 該当なし

続いて、作文コンクールで大会会長賞を受賞した、豊見城市立座安小学校3年の赤嶺智春君が、最優秀作文「じいちゃんのパレード」を朗読しました。

(一部省略、原文どおり)

「 “ じいちゃん。がんばれー ” ぼくたちは、大きな声で言いながら、海に向かって手をふりました。 」

(昨年、沖縄県で行われた1年前のプレ大会での感想から朗読が始まりました。)

= 略 =

「 “ 31回は鳥取県でやったんだよ。来年はおきなわでやるよ。天のうへい下も来るんだよ。 ” と、この前じいちゃんが教えてくれました。これは、海づくり大会のパレードです。海づくり大会は毎年やっているけど、海上パレードは、本番ではありません。練習です。天のうへい下に見せるために、去年から練習したのです。じいちゃんは、天のうへい下が来る今年、海づくり大会を楽しみにしていたそうです。だから、漁にも出ずに練習にさんかしました。じいちゃんは海んちゅです。船の名前は「さかえ丸」です。大漁ばたもいっぱいもっています。日の丸のはたは、海づくり大会のために買ったそうです。 = 以下省略 =

3年生になったら、沖づりにつれていってくれるやくそくもしました。ぼくはとても楽しみにしていました。でも大すきなじいちゃんは、3月8日にガンで亡くなりました。もう船のそうじゅうもさせてもらえません。つりにも行けなくなりました。じいちゃんは、楽しみにしていた海上パレードにも出られなくなりました。だから、かわりに、ぼくがいつか、じいちゃんみたいな海んちゅになって、じいちゃんの大すきな海で、海上パレードに出たいと思いました。 = 以下省略 =

と発表すると目頭を押さえる人もおり、会場から大きな拍手が起りました。

続いて、両陛下より漁業関係者に後日県内各地に放流・移植される「サラサバテイ(タカセガイ)」「シラヒゲウニ」「サンゴ」「ヒメジャコ」のお手渡しが行われました。

式典行事の最後として、服部郁弘推進委員会会長が、「今日(こんにち)まで、32回にわたり開催されてきた「全国豊かな海づくり大会」の意義と、「まもろうよ きせきのほしの あおいうみ」を

## 第 32 回大会 決議文

我が国は四方を海に囲まれ、その海からの恵みは、国民に豊かな生活と優れた食の文化をもたらしてきた。

ここ沖縄県は、日本の南西端に位置し、東西 1,000km、南北 400km に及ぶ広大な熱帯性海域に、160 を超える島々で構成されている。

周辺海域は、サンゴ礁漁場や黒潮の恩恵によるマグロ類などの回遊魚を中心とした豊かな漁場を有している。また、この海域独特の漁法による沿岸漁業や沖合漁業も営まれ、地域産業の発展に重要な役割を担ってきた。

特に、サンゴ礁海域で漁獲される水産物は、沖縄県独自の食文化を作り上げ、現在に受け継がれている。私達には、我が国の恵まれた水産資源を守り、豊饒の海という財産を、将来に引き継ぐ重要な責務がある。

今日まで、32回にわたり開催されてきた「全国豊かな海づくり大会」の意義と、「まもろうよ きせきのほしの あおいうみ」を合い言葉に、新たな決意を持って努力してゆくことをここに決議する。

平成 24 年 11 月 18 日

第 32 回全国豊かな海づくり大会



タマンとアーラミーバイを御放流される両陛下  
写真提供：水産経済新聞社

放流行事では、最初に両陛下が県を代表する沿岸魚「タマン（ハマフエフキ）」を御放流、2回目には最大50kgにもなる「アーラミーバイ（ヤイトハタ）」を御放流され、併せて招待者も同種の魚の放流を行いました。

沖縄県においても東日本大震災の影響（養殖施設等）を受けており、東日本大震災の被災者である岩手県の漁業者夫妻、福島県の漁業者夫妻から被災復興状況が報告されるとともに、「水産業を活気づける美ら海づくり」「未来に残す美ら海づくり」「東日本大震災の復興支援への協力」などの今大会の基本方針のもと、本土復帰40周年記念と併せ、沖縄県の豊かな「美ら海」を次世代に残していく大きな契機となったものと思います。

第33回大会は、平成25年秋に熊本県と豊かな海づくり大会推進委員会の共催により熊本県内で開催（大会キャラクター“くまモン”）されることとなっています。

## 大西洋まぐろ類保存国際委員会（ICCAT）の年次会合の結果について

資源管理部 国際課

### （はじめに）

大西洋まぐろ類保存国際委員会（ICCAT）は、大西洋における高度回遊性魚種（マグロ、カツオ及びカジキ類）の保存管理を目的とする地域漁業管理機関であり、年に一度の本委員会会合を開催して保存管理措置を決定しています。加盟国・地域は、日本、米国、カナダ、ブラジル、中国、南アフリカ及びEU等の48加盟国・地域です。

2012年11月12日から19日まで、アガディール（モロッコ王国）において2012年ICCAT年次会合が開催されたところ、我が国からは、宮原水産庁次

長（政府代表・委員会議長）をはじめ、水産庁、外務省、経済産業省、独立行政法人水産総合研究センター及び漁業関係団体の関係者が出席しました。なお、本会合の主な結果に関しては次のとおりです。

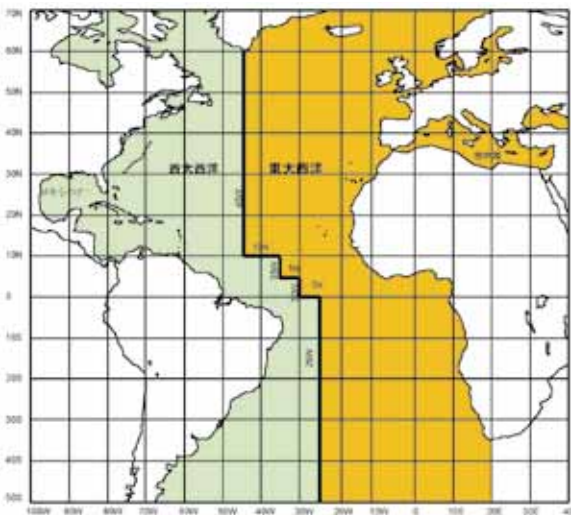


<年次会合の議場写真>

## 1. 大西洋クロマグロ

東資源については、科学委員会からの勧告に従い2013年の保存管理措置として、漁獲可能量（TAC：Total Allowable Catch）を13,400トン（2012年は12,900トン、前年比500トン増加）に設定されました（日本の割当量は、1,097.03トン（2012年）から1,139.55トン（2013年）、前年比42.52トン増加。）。なお、更なる増枠の可能性を追求するため、来年の科学委員会において、資源の今後の動向と、漁獲枠を更に増枠した場合の影響について検討することになりました。

一方、西資源については、科学委員会の勧告では現行の漁獲枠を維持することが適切とされたことから、2013年の保存管理措置としてTACを前年同様の1,750トンに設定しました（日本の割当量は2012年の301.64トンをそのまま維持。）。しかしながら、西資源が回復傾向にあるとする資源評価における科学的な不確実性を払拭するため、新たに作業部会を設置して資源評価方法を改善することになりました（現在、2つの極端なシナリオに基づき資源評価が行われており、資源評価が低くなるシナリオでは、漁獲しない場合であっても2019年にMSY（最大持続生産量）を達成という目標に到達不可能である一方、資源評価が高くなるシナリオでは既に目標を達成しているという両極端な資源評価結果を示している。）。



<大西洋クロマグロ操業管理図>

それぞれ勧告したところ、これらの勧告に基づき、2013～2015年の保存管理措置としてクロカワカジキは1,985トン、ニシマカジキは355トンのTACがそれぞれ設定されました。これにより、日本の割当量はクロカワカジキ390トン（2012年503.7トン）、ニシマカジキ35トン（2012年33.6トン）となりました。

## 4. マグロ類の漁獲証明制度

- (1) クロマグロについては、2008年より漁獲証明制度（水揚げから市場まで1枚の証明書でトレースし、主要ポイントで政府の認証が必要である制度。）が実施されてきており、違法漁獲物の市場からの締め出しに一定の効果を挙げていることから、これを更に、効率的かつ効果的なものにするため、制度の電子化（インターネット上で書類の記入や政府の認証を行う仕組み。）を進め、来年の地中海まき網漁期（5月16日）以降、2014年3月1日までに順次導入されることになりました。
- (2) また、その他のマグロ類（カツオ・キハダ・メバチ・その他（ピンナガ・メカジキ））の漁獲証明制度についても、今後の作業部会において、魚種及び漁業種類ごとに漁獲証明書制度の導入に関連した技術的及び実践的な問題について議論し、2015年からの制度実施を目標にして協議が進められる予定です。

## 2. メカジキ

北メカジキは、2013年までTAC（13,700トン、うち日本の割当量は842トン）が設定されていますが、南メカジキについても、現行のTAC（15,000トン、うち日本の割当量は901トン）をそのまま2013年まで延長することが決定されました。よって、2013年にはメカジキの南北資源を合わせた資源回復計画が策定される見込みです。

## 3. カジキ類

科学委員会は、クロカワカジキ（Blue marlin）について、TACを2,000トンレベルに削減すること、またニシマカジキ（White marlin）については、現状の漁獲レベル（344トン、2011年）を維持することを

## 5. 次回会合

次回の年次会合は、2013年11月に南アフリカのケープタウンで開催されることが決定されました。

## (おわりに)

ICCATは、今回の年次会合において、大西洋クロマグロの東資源のTACを微増ながらも500トン増加することに合意しました。このことは、ICCATにおいて過去10年以上に渡って保存管理措置の強化を継続してきたことが、マグロ資源を回復させる転換点となったことを意味するものであり、持続的利用が可能な水産資源は、厳格で適正な保存管理措置を講ずれば必ず資源回復を図ることができ、そのために地域漁業管理機関が適正に機能することを証明しました。

今後も我が国は、世界有数のマグロ漁業国及び消費国として、科学的な根拠に基づいたマグロ類資源の持続的利用が図られる様に、引き続きイニシアティブを発揮していく責務を有しています。



< 日本代表団の写真 >

## お知らせ

## 瀬戸内海漁業調整事務所漁業取締グループが人事院総裁賞を受賞

漁政部 漁政課

人事院総裁賞は、多年にわたる不断の努力や国民生活の向上への顕著な功績等により、公務の信頼を高めることに寄与したと認められる職員（一般職の国家公務員）又は職域を顕彰するものです。

この度、瀬戸内海漁業調整事務所漁業取締グループは、潜水器具や高速漁船を利用した密漁に対し、密漁者のみならず仲買人も初めて検挙するなど漁業秩序維持に貢献しているとして、平成24年度人事院総裁賞を受賞いたしました。

水産庁の受賞は、今回で3件目であり、そのうち、職域部門の受賞は、平成18年度に受賞した九州漁業調整事務所漁業取締グループに次ぐ2件目です。

人事院総裁賞授与式は、12月10日に明治記念館にて行われ、その後、皇居において、天皇皇后両陛下の御接見を賜りました。

瀬戸内海漁業調整事務所漁業取締グループから、次の受賞コメントが寄せられています。

「瀬戸内海漁業調整事務所漁業取締グループは、瀬戸内海を中心とする海域の漁業秩序を守るために日々切磋琢磨しながら公務に取り組んでおります。

この度の人事院総裁賞の受賞は、我々グループの日頃の取組を高く評価頂いたものであり、大変な名誉を頂いたことに対し身が引き締まる思いであると共に、所属職員にとりまして今後の公務に向けての大きな励みとなりました。

今後とも担当海域における資源保護や漁業秩序の維持に貢献できるよう日々の公務に邁進してまいります。」



人事院総裁から賞状を受けるグループ代表の山川氏



本川水産庁長官と山川夫妻

## 回遊魚

## 記憶

平成24年4月から仙台漁業調整事務所で仕事をしています。

平成23年3月11日の東日本大震災以降、仙台漁調には水産庁の震災対策現地統括本部が設置されました。現在も本庁の関係課と一緒に仙台漁調の職員が一体となって震災復旧・復興対策の最前線で頑張っています。

被災地の沿岸部では、ガレキの撤去や岸壁などの応急復旧の後、漁船や冷蔵庫などの生産施設は徐々に復旧していますが、多くの地域では、地盤沈下により水産加工場などの事業所（生業の場）、住宅、病院、学校などの生活関連施設（生活の場）の再建が進んでいない状況です。

そのような現地に行くと、住宅や施設の土台だけが残った荒涼とした土地が広がっているだけで、胸を締め付けられる思いがします。

このように非常に厳しい状況の中でも多くの漁業者の方々には仮設住宅に住みながら漁業や養殖業の復旧・復興に向け一生懸命頑張っています。

最近、被災地では「記憶の風化」という言葉をよく聞きます。今でもボランティアの方々現地に入り支援活動をしています。最近はその数も減ってきているのが現状だと思います。放射性物質による風評被害で苦勞して水揚げした水産物が適正価格で売れない現状もあります。

被災された方々は自分たちの現状を他の地域の人達は知っているのだろうかと不安に思っています。仙台では被災地の状況を伝えるテレビ番組や地方紙の報道が今でも多くありますが、たまに東京に戻ると、被災地の情報があまり報道されていないと感じます。

被災地はまだ非常事態です。被災地に対する支援の根っこは、震災当時の状況、これまでの取組、現状、そしてこれから取り組もうとしていることを知り、記憶に留めておくことだと思います。多くの方々被災地に訪れることで、被災地の方々に元気づけることが出来ると思います。そして、風評被害で苦しんでいる現場の方々に「被災地の生産物を食べて応援」しましょう。

秋サケを醤油ベースの出汁で軽く煮て、その煮汁で炊いたご飯にサケの身とイクラの醤油漬けを盛りつけた宮城（亶理荒浜）名産「はらこ飯」！美味しいですよ！



仙台漁業調整事務所長

かとうひさお  
加藤久雄

発表年月日	発表事項名	担当課
H24.11.1	日本海の暫定水域周辺での韓国漁船の重点取締について	管理課
H24.11.2	鷲尾農林水産大臣政務官の国内出張について	防災漁村課
H24.11.2	「南極の海洋生物資源の保存に関する委員会 (CCAMLR) 第 31 回 年次会合」の結果について	国際課
H24.11.2	平成 24 年度「人事院総裁賞」受賞者の決定について	漁政課
H24.11.6	「第 17 回 太平洋広域漁業調整委員会」の開催及び一般傍聴について	管理課
H24.11.7	「第 26 回 日口漁業専門家・科学者会議」の開催について	漁場資源課
H24.11.7	「平成 24 年度 我が国周辺水域の資源評価」の公表について	漁場資源課
H24.11.9	「大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT) 第 18 回 特別会合 (年次会合)」の開催について	国際課
H24.11.9	「日・ソロモン漁業協議」の開催について	国際課
H24.11.14	「第 26 回 日口漁業専門家・科学者会議」の結果について	漁場資源課
H24.11.15	「第 20 回 日本海・九州西広域漁業調整委員会」の開催及び一般傍聴について	管理課
H24.11.15	「お魚かたりべ」の任命及び学校教育の場における魚食普及の支援について (「魚の国のしあわせ」プロジェクト)	企画課
H24.11.16	郡司農林水産大臣の国内出張について	栽培養殖課
H24.11.19	「日・ソロモン漁業協議」の結果について	国際課
H24.11.20	「大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT) 第 18 回 特別会合 (年次会合)」の結果について	国際課
H24.11.20	中国いか釣り漁船の拿捕について	管理課
H24.11.21	「第 18 回 日韓漁業取締実務者協議」の開催について	管理課
H24.11.22	「日口漁業委員会 第 29 回 会議」の開催について	国際課
H24.11.26	「魚の国のしあわせ」プロジェクト「おさかな会議 2012 ~お魚のある食卓~」の開催及び一般参加者の募集について	企画課
H24.11.26	「ニホンウナギ産卵回遊調査」の実施について	漁場資源課
H24.11.26	「第 18 回 日韓漁業取締実務者協議」の結果について	管理課
H24.11.27	「太平洋クロマグロ仔稚魚分布調査」の結果について	漁場資源課
H24.11.27	平成 24 年度 日本海さば類・マアジ・マイワシ・ブリ長期漁況予報	漁場資源課
H24.11.30	「第 9 回 南東大西洋漁業機関 (SEAFO) 年次会合」の開催について	国際課
H24.11.30	「ニホンウナギの国際的資源保護・管理に係る第 2 回非公式協議」の開催について	漁場資源課
H24.11.30	「中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC) 第 9 回 年次会合」の開催について	国際課

## 編集後記 “窓辺のカーテン”

本年も残り僅かとなりました。年々、時の過ぎるのが速く感じられますが、これは、これまでの人生に占める一日若しくは一年の割合がどんどん低くなっていくからと聞いたことがあります。

あつという間に過ぎたと感じるものの、いろいろあったこの一年を振り返り、来年に備えようと思う今日この頃です。

「漁政の窓」では皆様に水産庁施策についてわかりやすくお伝えできるよう努めていきますので、今後とも宜しく願いいたします。

ご意見やご質問がありましたら、以下にお願いいたします。

水産庁施策情報誌 **漁政の窓**

編集・発行 水産庁漁政部漁政課広報班

〒100-8907 東京都千代田区霞が関1-2-1 合同庁舎1号館8階

代表 03-3502-8111 (内線6505)

URL <http://www.jfa.ma.go.jp/>

ご意見 ご質問はこちらへ ➡ URL <http://www.ma.go.jp/j/apply/recp/index.html>